

親展

南西方面艦隊・菲島北部隊

大海參二部  
第一聯合基地航空部隊  
第三南遣艦隊移動通信隊

九二

機密第三一一六三九番電

暗号機

「キヤビテ」海軍施設へ本日迄連日敵大型機ノ猛爆ニ依リ水警隊  
附近海岸ヲ除キ水偵基地施設工作部施設壊滅シ通信施設又使  
用不能トナリタルニ付破壊處分セリ。

（東通誌 不解ノ爲遅延）

通四九 呂一A（八八八四KG）三十一通 飛出（南谷）

電〇〇〇一一二  
航作  
本概〇



九五五航空隊  
電〇〇一五六

航作  
本概〇

現展

南西方面  
三九一〇根  
空。一聯合基地航空部隊。二六航戰

暗電軍機

機密第三一六五八番

營隊本日ノ猛爆ニ依リ遂ニ可動機零トナリ且カナカオ基地一週  
間ニ五ルB二四ノ爆彈ニ依リ不發彈ヨリ見ル五〇番使用水上基地  
トシテノ機能ヲ喪失シタルニヨリ令ニ依リ撤退シMMニ轉進ス。

通一八〇 呂二A(一〇二六五K)一〇FCBA



二一 受信一九五〇七 譯丁二〇〇七 電〇〇三九一 作區◎

大總 海上護衛總司令部

聯合艦隊各口、支那方面艦隊口、各鎮守府、各警備府

機密第〇一六二四番電

〇F電令作第四九四號

二月一日一四〇〇本職將旗ヲ第一作戰司令部所ニ移揚ス。

局長	
一課長	
A	L
B	K
E	I
J	C
G	H
D	

通四五三 呂二A) B) G) H)

石垣(太田)海軍

第十信課



受信二三四八  
開始〇四三〇

了〇五五五

電〇〇五七七  
電〇〇五七八

概〇

總無線艦所用共通符號

聯合艦隊口・第五艦隊口・南西方面艦隊口・第三一戰隊

次次

機密第〇一

局長	長官	平春	赤城	D
一審電				
五分				

發送隊指揮官（第四三驅逐隊司令）

「バトリナオ」發送隊戰鬥概報

四三驅逐隊（梅）楓ヲ率キ三十一日〇九〇〇高雄出撃バトリナオニ

向ケ航行中一一一五頃高雄灯台ノ二五〇度一八浬ニ於テB1三四

二四機P1三八 一四機ヲ發見攻撃之ヲ撃退セルモ一五一五鷺變鼻

ノ一八〇度二〇浬ニ於テ敵B1二五 六機P1三八 六機ト交戦左

ノ被害アリ一時本作戦ヲ中止ノ己ムナキニ至リタリ

六〇六、六一六、四一Aヲ十八（四〇九五）高

## 一 被害

(一) 梅直擊 (二十五番程度) 二依り後艦橋ヨリ後部切斷航行不能  
 後部機械室浸水前部ニ被彈二 (小型) 及至近彈一其ノ他機銃彈  
 多數ニ依り各所ニ浸水左ニ二〇度傾斜極力遮防ニ努メタルモ漸  
 次浸水ヲ増加一八一〇沈没セリ

戦死七十七名 (内准士官以上五名) 重輕傷者三十六名 (内准士官以  
 上四名) 外ニ便乗者 戦死一五名重輕傷者五名 (内准士官以  
 上一名)

(二) 楓一番砲後部被彈 (二十五番程度) 二依り一番砲使用可能一番  
 聯装機銃台飛散艦橋下部構造物大破及第四兵員室ヨリ前方大部  
 ノ區劃大破浸水一時大火災トナリタルモ應急換舵ニヨリ歸港戦  
 死約四〇名 (内准士官以上二名) 重輕傷者二十八名 (准士官以  
 上一名) 外ニ便乗者戦死八名 (准士官以上二名) 重輕者八名  
 (三) 汐風至近彈ニシテ輕微ノ損傷アルモ應急修理可能ノ見込重輕傷  
 者二名

二 戦果 撃墜五一二五 三機。

一 一番砲使用可能トアルハ「使用不能」ノ誤ナラン

至急  
親展

受信一四〇五

譯了二四二〇

電〇〇八

一五官房・軍務  
令・兵備・人事  
令副・二令・四令  
海護・十二課

第十課

● 第一護衛艦隊  
● 東 通・十 通・三根



機密第〇二一〇三一番電

發 第二南遣艦隊參謀長

通報 S B B 參謀長・聯合艦隊參謀長・第二十一特別根據地隊司令官

N S B 電令作第五三四號ニ依リ貴艦隊ニ派遣中ノ第一〇二號哨戒艇

第一〇四號哨戒艇及第一〇一號掃海艇ノ現状承ハリ度尙派遣長期間

ニ互ニ事務處理上必要ニ付南號作戰一段落後一應原隊ニ復歸ノコ

トニ取計ハレ度

通八八九 口二アラ十八一八三六七 KC 二一 通 海 軍



二三

受信〇八一〇 譯了〇九四〇 電〇一二一五 作 概〇  
開始〇九〇〇

	長	部	長	部	長	部	長	部	長	部
A	司	長	部	長	部	長	部	長	部	長
B	司	長	部	長	部	長	部	長	部	長
J	司	長	部	長	部	長	部	長	部	長
	司	長	部	長	部	長	部	長	部	長

總無線艦所用共通符號

軍令部一部

第六艦隊



機密第〇二一四〇〇番

發 一特基司令官

回天一型作戰使用可能基數四五基（内一四基ハ未受領ニシテ二月  
中旬迄ニ入手豫定）對シ先遣部隊ヨリ三月末迄ノ要望基數四五基  
（内五基ハ豫備）ニ付回天基地進出ハ四月以降ノ事ニ考慮アリ度  
右ニ關シ至急回答ヲ得度。

通一三六三 呂一A（B）吳



二 三 受信 二一〇四二 譯了 二一二一〇 電 〇一五二七 航作 本誌 〇



機密第〇三一六一一番電

敵ハB二四ヲ以テ 昆明ヲ基地トシ南支沿岸航行船團ニ對シ哨戒ヲ嚴  
 ニ實施シツツアリ 船團護衛中水偵ハ最近ニ機撃隊サレタル實情ニ付  
 九〇一空香港派遣隊ニ至急戰鬥機隊ノ派遣ヲ得度

適一六九一 呂一A (四七〇五KC) 高雄





二 四 受信 〇四二〇〇 譯了 一二四〇 〇一七六八 作 〇

三 一 根

◎ 大海參一部・聯合艦隊口・南西方面艦隊口・第三南遣艦隊口・  
◎ 第三南遣艦隊第十一移動通信隊

機密 第三〇一二〇六番電 七分ノ七

、附屬隊（隊名指擲官兵力ノ順）

（一）通信隊少佐阿保直聯合 通信隊准士官以上三〇下士官兵六九二

カビテマツキンレ一富士ヶ岡（ガタルツベ）海岸各送信所第一職團

指擲所北菲空各受信所外ニ各地區隊及振武集團分遣隊ニ一隊宛チ

配ス 以上

（二）工作隊大佐宮田正巳聯合工作隊准士官 三〇下士官兵三四其ノ他一

四七九各種機銃九各種小銃八五拳銃四二重擲一

頭一八四九 ロニムラ十八（四七〇五和）高嶺

(三) 陸送隊少佐近衛聯合隊總士官 一六下士官兵三〇二其ノ他一

三四〇總銃一各種小銃二一車輛五九機帆船五七火發一五

(四) 補給隊主計中佐柳代田實聯合隊給隊准士官以上一五下士官兵一〇九

其ノ他二八六機銃七各種小銃九五

(五) 施設隊技術中佐志滿津明生聯合施設隊准士官以上六下士官兵一六其

ノ他一〇五一機銃一小銃一六重擲一

(六) 醫務隊軍醫中佐坪田繁樹聯合醫務隊准士官以上齒科藥劑科ヲ含ム

三〇下士官兵二一九其ノ他一四八小銃九機銃六

(七) 主計隊小計少佐増田眞聯合主計隊准士官以上三四下士官兵四〇二其ノ

他八三一

三兵力總計海軍准士官以上三七九下士官兵一〇〇七六其ノ他四五一一計

一四九六六陸軍將校一四〇下士官兵一二四六五其ノ他一六五四計六一

九五。

一 東洋雜誌 陸軍兵力總計誤作ト誤ム

二 電備課誌 本誌七卷ノ一頁四行第六既配布

緊急親展

二四

受信開始一四三〇五

了一五〇〇

電〇〇一八六五

作 概〇

第一一特根下・第一三航空艦隊

大海軍一部・海上護衛總隊

機密第〇四一〇四五番電 二分ノ一二

發 G.P. 參謀長

宛 南方軍總參謀長

大海機密第〇三一四〇九番電關聯

二月五日附第十方面艦隊編成セラレ同艦隊同日以降貴軍司令官ノ指揮ヲ受ケシメラルル豫定ナルトロカ右ノ場合第十方面艦隊ヲシテ南方動脈輸送ニ對スル海上交通保護並ニ對潛作戰ニ關シ聯合艦隊司令長官ノ區處ヲ承ケシムル件ニ關シ了承ヲ得度

機密第〇四一〇四五番電 二分ノ一二

尙第十方面艦隊以外ノ聯合艦隊麾下（指揮下兵力ヲ含ム）  
 兵力貴軍作戦擔任地域ヲ行動入場合所要ニ應ジ右兵力ヲシテ司令長官  
 ノ命令ニ依リ直接第十方面艦隊司令長官ノ作戦指揮ヲ承ケ（解カ）シ  
 ムル件ニ關シテモ豫メ御了承テ得度協談入。



至急親展

受信開始 〇〇三〇〇〇

譯了 一二五〇

電 〇〇二二〇三

作 概 〇

大 海聯合艦隊各戸  
聯合艦隊各戸

局長	一課長	A	B	E	J	G	H

機密第〇四一五五五番電 二分ノ三

南西方面艦隊參謀長

呂宋方面海軍各部隊（艦）ノ配備ニアルモ打合通

現狀（二月三日）

現在）概ネ左ノ通（部隊名配備地指揮官兵力其ノ他ノ順）

「マニラ」地區防衛部隊「マニラ」市第三十一特別根據地隊司令官  
一四九六六名

「マニラ」灣口防備部隊「コレヒドール」「カバリオ」「カラバオ」

「エレブレル」各島「マリベレス」「カボカバン」「テルナー」

「三三二」「二七八五」

板垣大佐約三〇〇〇名（含ム設營隊一三〇〇名及口軍約四〇〇名）

三「クラーイタ」防衛部隊「クラーイタ」航空基地及同西方高地一帯一六

航空戦隊約一四〇〇〇名

四バヨンボン防衛部隊バヨンボン周邊早川少將七七三一名 一〇三各

廳通信隊氣象隊港務部 運輸部 一特工 軍法會議武官府ノ主力

及航空廠ノ一部ニシテ 二月一日集結完了

五「バギオ」二二六四名（外ニ「ナギリアン」約二五〇名サンフエルナ  
ンド約二〇〇名）

六移動中ノ兵力

(イ) サンフエルナンドヨリアバリへ九〇〇名

(ロ) サンフエルナンドヨリアバヨンボンへ六〇〇名

七其ノ他「ツゲガラオ」「アバリ」方面ニ輸送人員若干滯留シアル外  
概テ固有配備ニアリマニラ クラーイタ地區所在人員ハ戦闘要員ノミ  
ニシテ一符字ハバヨンボン地區ニ在リ生産警備ニ充當中。



二 五 受領 〇二二三〇〇 了 〇二〇五 〇〇二〇六〇 作 區 〇

# 緊急 親展

聯合艦隊各F

大澤多一 海軍上將 各艦各機

暗號軍機

〇四二〇五六番電 二分ノ一、二

GF命令作第 四九九號

二月五日附 GF 第三段兵力部署 (機密 GF 命令作第一〇〇號) 中左

ノ通リ改

一 第二遊撃部隊ヲ解散ス

二 南西方面部隊ヲ北進部隊ヲ解散ス

三 南西方面部隊兵力中三一S及第一機隊ヲ解散ス

四 西部方面部隊中第三機隊及空母部隊西方部隊東印部隊分ヲ解散

二三七三・二三八四 呂一Aヲ一八 (GF) 海軍



第十課

英西都方面部隊及薩北部隊ヲ本職直率トシ西都方面部隊ノ次ニ薩北  
部隊ヲ加入西都方面部隊及薩北部隊ノ指揮官・兵力・主要任務左  
ノ如ク

(イ) 西都方面部隊 (SIB) 第十方面艦隊長官第十方面艦隊・南方  
軍總司令官ノ指揮ヲ受テ作戰ニ從事

(ロ) 薩北部隊 (GHE)・四KF長官・四KF・南方軍總司令官ノ  
指揮ヲ受テ作戰ニ從事

第十信課

海軍



二五 受信 一八〇一 譯了 一八四五 電〇二三三四 作機 〇  
譯始 一八二五

緊急

聯合艦隊各P

大海參一部・海上護衛總口・各艦、各營

機密第〇五一六五二番電

聯合艦隊電令作第五〇〇號

聯合艦隊電令作第四九九號（聯合艦隊機密第〇四二〇五六番電）第五

項(1) 西部方面部隊及濠北部隊ノ南方軍總司令官ノ指揮下ニ入ル時機

ヲ二月七日〇〇〇〇トス。

通二六六九 呂一Aラ十八( B ) G P P

44/10

二七  
緊急  
秘

受領 〇〇四〇五  
開始 〇〇四〇五

了 〇四三〇 〇三〇二二 時 作 〇

● 總無敵艦所用共通符號

● 大海參一部。聯合艦隊中。支那方面艦隊中

機密第〇六一二〇九番

● 第二遣支艦隊參謀長

第二十三軍ニテ計劃セル兵力展開大要左ノ地區毎約一編隊ニシテ  
尙兵力増派ヲ要求中

廈門對岸（蘇州地區ヨリ進出）汕頭、海豐、香港、廣東、陽江。

通三三四八

呂一A

海軍

第十信課

山



至急  
展

二八 受信一九三〇 了二〇一〇 電〇三九三九 作權〇  
航本

木更津航空基地

四艦隊口・七五二空

總長・聯合艦隊口・七基地航空部隊・横銀・父島根下

機密第〇八一五三七番電

七PGB電令作第二三號

一第七五二航空隊司令ハT三及T一〇二所屬彩雲六機（指揮官 三木

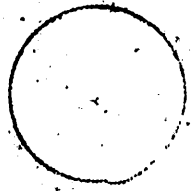
大尉 搭乗員六組 整備員六名）ヲ二月十日以後速ニPTニ派遣第

四艦隊司令長官ノ指揮下ニ入ラシムベシ

ニ父島航空隊司令ハ右輸送ニ關シ協カスベシ

通四二九五 出二A一B一木空

八  
受信一九二〇  
了一九三五  
電〇三七四九  
作 概〇



南西方面艦隊 P  
大海参、三部・三一根 P

機密第〇八一七二五番電

發 G P 參謀長

南西方面艦隊機密第〇七一二三〇番電關聯  
敵ノ催涙ガス使用狀況詳細御通知アリ度

通四三〇八  
口ニ▲ラ十八(B) G P P



二九  
 〇四二五  
 〇五〇〇  
 譯了〇五五一  
 電〇三九四三  
 作 〇

局長	海上護衛總司令部	平春	王勇	山	赤城	十一	十一
機密第一〇八二三五番電	第十通信隊	機	機	機	機	機	機

據地除

威總參謀長

海上護衛總司令部 一〇五B各參謀長

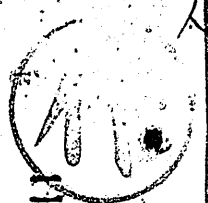
通電先 司

參 考 次長 岡 三船司 G K F長官 十方面部隊長官

威參一電第九五〇號

南號作戰ニ於ケル船團ノ對潛護衛ハ遺憾ナガラ不充分ニシテ特ニ佛  
 印沿岸地區ニ於テ蠻閭損害ヲ出シツツアルノ實情ニ鑑ミ現地海軍ト  
 協議ノ上之ガ護衛強化ニ關シ至急御配慮アリ度  
 尙海軍ノ現況上強化困難ナル場合ニ於テハ一時貴軍ニ於テ一部兵力  
 ヲ增強セラレ度意見ナリ

通四五〇 四二A (六二三五七) 十通



九 受信一三〇八  
開始一三〇八

了了一三〇〇 電〇四〇八三

航作  
本概〇

● 第四艦隊 口

● 大海參一部・聯合艦隊口・二七航戰口

機密第〇九〇九一二番電

發 三 A F 參謀長

(一) 明後十一日〇六〇〇第一〇二三航空隊一式輸送機一機第七五二航空隊彩

雲四機 P 十二向ヶ硫黃島發ノ豫定

(二) 通信要領

(1) 使用電波六九九五 KC 呼出符號輸送機一ル 不彩雲七リチ トラツク硫黃

島呼丙

(2) 飛行機五二基地發時刻ノ三時間前ヨリ飛行機電波ニテ毎時ノ天候

ヲ得度又飛行機ハ保安上要スレバ 行ウ。

通四六〇三 呂一 A ラ一八 ( B ) 木更着

二九 受信 一七四四 譯 了一九四〇 電〇四二五五 航作概本〇  
譯始 一九一〇

● 小祿航空基地

● 聯合艦隊口・第三航空艦隊口・佐領

● 鹿屋空基地

機密第〇九一五二三番電

發 第二十五航空隊司令官

宛 南西諸島航空隊司令

貴機密第〇八一〇二七番電ニ關聯聯合艦隊參謀副長ト電話連絡ノ次第  
次ノ如シ

北中飛行場ニ關スル中央原案ナルモノ無シ特攻隊兵力伏勢用トシテ聯合艦隊電令ニ示サレタル所數ハ南西諸島防備上必要トスル最小限度特攻兵力數ニシテソノ使用ニ關シテハ飽ク迄陸海軍共用ニ付現地軍側ト然ルベク協議ノ上工事ヲ進メラレ度。

通通四七四三 呂一Aヶ四(七六〇五IC) 鹿屋基地

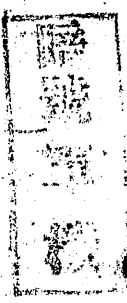


二一〇 受領 〇三三〇 〇五二〇 〇六一七 〇四四二六 作 〇

親展

● 第二 〇〇〇〇

● 軍令部・海軍部



海軍第一〇〇〇一七番

第二 〇〇〇〇

海軍部 海軍部及海軍省

第一 〇〇〇〇

海軍部 海軍部 海軍部 海軍部

海軍部 海軍部 海軍部 海軍部

海軍部 海軍部

海軍部 海軍部

海軍

第十部



人



二  
一〇 受信〇三二〇 了〇四五〇 電〇四八三二八 作 概〇  
一〇 開始〇四〇五

東 遠 三南遣艦隊第一 移動通信隊  
南 西 方面 艦隊 F 第三南遣艦隊 F

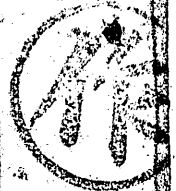
機密第一 〇一〇一〇二二番電 二分ノ一、二

發 三十一特根司令官

宛 G K F、三 K F、振武參謀長、大海參一部長

敵ハ一地區敷門ノ追撃砲ヲ以テ飛行機觀測ヲ併用シ終日我が各陣地ニ  
對シ射撃彈着極メテ正確ニシテ人員兵器ヲ喪失シツツアリ當方ヨリハ  
攻撃ノ手ナク端的ニ申セバ敵教練射撃ノ目標トナリ居ルニ過ギズ切齒  
ノ極ナリ唯一ノ頼トスル肉攻モ敵ノ警戒ト「ゲリテ」ノ妨害兵器ノ不  
備（特ニ海軍）練度不足ノ爲全ク豫期ノ成果ヲ收メ得ズ目下僅ニ民家  
焼打取締ニ過ギズ敵對艦ハ陸員ノ士氣ニモ影響特ニ軍艦多數ヲ  
有スル海軍トシテ眞無藥慮致シ居ル次第ナリ。

連五三一五・五四三二 呂 A 一〇二六五 KC 五 G F O B V



三二二 受信 一三三九  
開始 一三五〇

丁一五四五

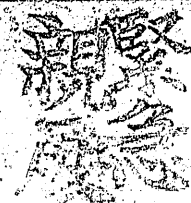
電〇四九八二

作原◎・濤 總

● 海

南

營



● 海上護衛總口・東 連・第一聯合護衛隊 隊中

暗號軍機

九〇一空・支那方面艦隊口・第二連支艦隊口  
機密第一一〇九一三番電

參謀長

大瀨 參一部長・各參謀長

海軍 軍務局長

○ 外敵遊撃作戰ノ場合航空作戰ノ要機ニ鑑ミ本作戰機動ニ際シテハ九  
〇一連三亞級遠隔ヲ指揮シ得ル如ク豫メ指令方取計ハレ度。

五五六六五 呂一A(二三五二〇配)高雄

海軍

第十部 課

二 一 二 受信 〇〇一〇五二 譯了 〇二五五 電 〇〇五二六七 作概 〇  
譯始 〇〇一〇二〇 電 〇〇五二七八

共 符

南西方面艦隊 第一航空艦隊 第一航空艦隊

機密第一一二〇三〇番電 二分ノ三

聯合艦隊參謀長

「クライク」地區「クライク」部隊ノ作戰指導ニ關スル當方意見左

ノ通

南西太平洋地區防衛部隊ガ複廓陣地ニ依リ長期持久態勢ヲ確立セシ  
トセバ同隊累次ノ要望ニ示ス如ク膨大ナル物量彈藥ノ補給ヲ要ス  
所敵ガ「クライク」基地群ヲ全面的ニ使用シアル現況ニ於テ航空機  
並ニ潜水艦ニ依ル補給極メテ困難ナルノミナラズ之ガ充當兵力ヲ割  
リ得ザル現狀ニ於テハ遺憾ナカラ同隊ノ要望ヲ充足シ得ス又同部隊

通五九二六・五九七九 ロ二A(B)GF

ノ現有輕兵器ヲ以テシテハ逐日強化スル敵防禦線ヲ突破シテ「クラ」  
 ク「基地ノ使用ヲ封殺スルコト困難ナルハ「ロキオ」作戰ノ先例ニ  
 見ルモ明カナリ而モ現守備地域ハ山地ニシテ膨大ナル守備軍ノ糧食持  
 久態勢ノ確立亦不如意ナルベク從ツテ同隊ハ日日戦力ヲ消耗遂ニ立能  
 ハザズシテ自滅ニ陥ル算大ナルベシ因テ同隊ノ採ルベキ最有效ナル方  
 策ハ好機ニ投ジナルベク速ナル時機ニ諸案ノ一ヲ選ビ攻勢ニ轉移スル  
 ニアリ而モ本攻勢ガ敵「マニラ」攻略軍ノ背後ヲ脅威「マニラ」血戰  
 ニ寄與スルコト絶大ナルヲ信ジテ疑ハズ  
 「クラ」當面ノ敵ヲ撃破シツツ「マニラ」ニ進撃「マニラ」守  
 備軍ニ策應シ敵ヲ夾撃シタル後同隊ニ合流ス  
 二當面ノ敵ヲ撃破シツツ「バギオ」方面進撃友軍ニ合流ス  
 三「クラ」當面ノ敵ニ對シ攻勢ニ轉ジ敵ヲ吸引決戦シテ「マニラ」  
 「方面ニ對スル敵ノ作戰ヲ牽制スルト共ニ敵ニ出血戰ヲ強要ス  
 追テ右作戰實施ニ際シテハ豫メ軍ト打合ヒ其ノ全面的協力ヲ必要

ト認メアリ

陸

二  
一一二 受信二三四五 譯了〇〇五五 電〇五二六六 作 概〇

緊急親展



南聯合艦隊司令部  
南聯合艦隊司令部  
南聯合艦隊司令部  
南聯合艦隊司令部  
南聯合艦隊司令部

機密第一一二〇四五番電

發 總司令官

宛 GF、GKF、IOHF 各司令長官

通電先 十HF 一三AFP 軍令部 GF 尙武 輝 澤 司

威參一電第九七二號

威作命申第四百十五號要旨

第十方面艦隊司令長官ハ速ニ一三AFP九六式陸攻二三型隊ヲシテ「スリ  
ガオ」海峽ニ機雷ヲ敷設セシムベシ。

（註）「九六式陸攻二三型隊」トアルハ「九六式陸攻隊」ノ存在トスル

通五九五九 四一A（六二三五）一〇海



作戰時別緊急

長	一	長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長

二一五

受

信

始

九九

五

五

五

五

五

五

五

五

五

電

〇六七七

作

艦

〇

根

第三十一根戰團艦報着信艦所  
第三十三號艦隊第十一移動通信隊

機密第一四二二四六番電 四分ノ一

此ノ度ノ戰團ヲ通覽スルニ凡ソ戰團ノ勝敗ハ中隊長以下下級指揮官ノ勇猛果敢ナル攻堅精神ト旺盛ナル責任觀念ニアリ弱將ノ下ニ勇卒ナシ凡ソ指揮官タル者沈着大膽難局ニ處シ有ユル障害ヲ突破シテ戰勝ヲ獲得スルノ豪邁ナル精神ヲ涵養ヒザルベカラズ。

一電信課註 本電四分ノ二以下未着

海七六八三 日二Aラ十八(一〇二六五)廿一通

二 一七

受信〇〇四一〇  
譯始〇〇四四五

譯了〇九〇〇 電〇七八六九 作 概〇

作戰特別緊急

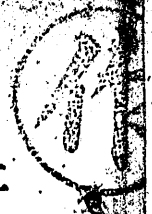
三 一 根

第三南遣艦隊第一一移動通信隊・三一根戰團統報着信鑑所

機密第一四二二四六番電 四分ノ二

青年將校ニシテ烈々タル武勇ヲ振ヒ勇往邁進敵中ニ突入多大ノ戰果  
ヲ收メタルモノアルモ敵ヲ見テ一發ノ應戰ナク後退スル小隊長アリ  
熾烈ナル迫撃砲彈ニ眩惑セラレ陣地ヲ放棄スルモノアリ特ニ海軍兵  
學校卒業士官ニシテ命ナクシテ其ノ部下ト共ニ戰線ヲ離脱他ニ轉道  
スルモノアルハ遺憾ノ極ミナリ。

（電信譯註 本電四分ノ一、三既配布四分ノ四未着）  
（東通 註 本電極メテ誤字多キ爲遲延）  
通八九〇四 呂二A（七八五五KC）三二通 鈴文（森 田）



二 一七 受信〇二四一 譯了〇五五五 電〇七七三三 作 概〇  
譯始〇三一五

作戰特別緊急

三 一 根

● 三一 根 戰團 概報着信 艦所

機密第一四二二四六番電 四分ノ三

三 訓練ナキ軍隊ハ「ゲリラ」ニモ劣ル烏合ノ衆慘烈ヲ極メル戰場裡ニ於  
テ克ク戰團任務ヲ完遂スルモノ戰團各員ノ必勝ノ信念ニアリ  
必勝ノ信念ハヨク不斷ノ訓練ニ生マ凡ソ軍隊タルモノ寸暇ヲ惜ミ訓練  
ニ終始シ必ズ必勝ノ實力ヲ涵養スルヲ要ス  
軍隊ノ組織徒ニ形態ヲ整ヘ編成ナレリトスル軍隊ハ「マニラ」戰團ノ  
敗因ヲ作レリ。

電信譯註

本電四分ノ一既配布四分ノ四未着

一八八七〇 呂二A (七八五五KC) 三二通 猪野(吉田)





二一七 受信 〇〇三〇〇 譯了 〇八〇〇 電 〇八三六五 作 概 〇

三 一 根

第三南遣艦隊一移動通信隊。三一根戰鬪概報着信艦所

機密第一四二二四六番電 四分ノ四

一兵ノ敵ニ目見エズシテ其ノ損害ヲ見ルニ至レリ將兵一同切齒扼腕總  
員斬込ヲ熱望シアリ。優秀ナル。戰勝ノ。セリ。マニラ。戰鬪  
ニ於敵主力ハマニラ灣口ヲ。比人。ゲリラ。ナリ盡忠赤誠我皇軍  
ニシテ何ヲ以テ彼ニ敗レシ迫撃砲彈ノ正確無比ナル集中ニ依リ徒ラニ  
人員ヲ消耗シ其ノ戰力漸次減少スルニ因ルナリ。

（電信課註 本電四分ノ一、三既配布）

（通註 本電誤字極メテ多ク再送要求中ナルモ一應配布ス）

通八八八一 呂二A（七八五五KG）三二通 鈴木（森 田）

作

二一五 受信 二三一四 譯了 一二五五  
一六 譯始 〇九〇〇  
電〇七六六八 作概 〇

● 大海參一部・聯合艦隊口

● 第一航空艦隊口

機密第一五〇九四二番電 三分ノ一二

陸 南西方面艦隊參謀長

ルソン方面一般戰況左ノ通

十三日頃ニ上陸セル敵ノ兵力一四乃至一五ヶ師團ニシテ内五乃至六ヶ

師團ハ北東戰線(旭撃鐵兵團正面)ニ約二ヶ師團ハ「クラーター」正面

ニ又二ヶ師團内外ノモノハ「スピツク」灣東北地區ニ在ルモノノ如シ

「マニラ」市ニ對シテハ北方ヨリ二ヶ師團南方ヨリ一ヶ師團侵入シツ

ツアリ

八〇〇四・八一二八 ス一A(四七〇五B) 高雄

(一)

「ナスグブ」ニ上陸東進中ノ兵力約二ヶ師團ナリ

ニ尙武集團ノ作戰方針ハ堅固ナル陣地ニ據リ當面ノ敵ニ出血ヲ強ヒ好機  
斬込攻撃ヲ反覆特ニ其ノ後方補給路ヲ脅威敵大兵力ヲ「ルソソ」  
平原ニ拘束撃碎スルニ在リ

ニ各方面ノ戦闘ハ概ネ既定方針通實施一リンガエン上陸以來敵兵ノ殺

傷約二四〇〇〇我ガ死傷（判明セルモノ）約七〇〇〇名ナリ（十四

日現在）現在各戦線トモ概ネ山間陣地ヲ占據敵兵力ヲ拘束シツツアリ

「電信課註 本電三分ノ三未着」

「東通註 本電誤字多キ爲遅延ス」

？ノ箇所再送要求中

(H)

作

局長	信	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一課長	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

◎ 大海参一部。聯合艦隊口  
◎ 第一航空艦隊口

機密第一五〇九四二番電 三分ノ三

機密 OKF参謀長

機密「クラーク」スピツク「東方及「アガ」方面ノ部隊ハ「マニラ」方面ニ向ハントスル敵兵力ヲ克ク阻止シ全線作戰ニ寄與スルトコト大ナルモノアリ

各部隊ノ實施シル斬込作戰ハ敵ノ心腹ヲ寒カラシメ相當ノ戦果ヲ擧ゲツツアリシガ今回振武集團ヲ存兵力約七ヶ大隊ヲ以テ「マニラ」市北端ニ向ヒ反撃ヲ企圖シ十二日行動ヲ開始シリ。

電信課誌 本頁三分ノ六ニハ既配布

通一〇三三四 スA(一)〇二六五 KC(五) RCP

局長	
一課長	
	二課長
	三課長
	四課長
	五課長
	受信始
	六課長
	七課長
	八課長
	九課長
	一〇課長
	一一課長
	一二課長

一三三〇 電〇六七九七 作 概〇

一二航空艦隊P：大湊警

大 臣 長 横 銀

機密第一五一〇三一番電

VGF電令<sup>作</sup>第五一七號

第十二航空艦隊司令長官ハ作戰ニ關シ大湊警備府司令長官ヲ指揮スベシ。

海七七四六 呂二A々四 ) R ) GFH D



一七 受信 〇〇八三〇三 了二〇〇 電〇七九五二 作 概〇

聯合艦隊 大海參一部・第一航空艦隊

機密第一一五一五一一番電 二分ノ二

發 南西方面艦隊參謀長

且同部隊ノ編成裝備訓練等ノ點ヨリ見ルモ一同陣地ヲ捨テ出撃センカ一部  
兵力ハ目的地ニ到達シ得ルトスルモ殆ド大部ノ戦力ヲ喪失スルニ至リ目的  
達成ハ甚ダ困難ナリト判断シアリ又糧食彈藥ハ各方面共充分ナラズ  
補給ニ苦慮シアル狀況ナリ當方面作戰指導ニ關シテハ第十四方面軍ニ於テ  
モ戰況彼我ノ戦力等ヲ較量シ當方ト充分ナル連絡ノ上指導中ナリ。

(電信課註 二分ノ一既配布)

通八九四〇 壽一A(八八八四K) GKF放 青木(福田)

1/2 親 菲 英 3311  
見 5391

二一六

受了始價  
一八四一  
一〇三  
〇〇一

〇七四八八

軍令一  
事務令  
兵三  
備令房

第十信原

東 通

泰國在勸武官

機務第一五一六一三三三番區

冠 軍務局長

平春

通 報 兵備局長 人事局長

土井技師及女運事生四計五名ヲ三月下旬隨商發 阿波丸ニ便乘  
此ノ際 阿波丸ニシテ 慶應在 泰一 般邦人 船官 效外トシテ 便乘 許可

取附方 運乘 取計ヲ 得度 結果 返

「東通社」取附「取止」トモ 歸シ得

通八一九八

通一八六二八五五〇一十通

海 軍

謀

局員

局員

局員

第十部

二  
一五  
六五  
受信二〇三〇〇  
開始二〇三〇〇  
了二一四五  
電〇七三〇四  
補人

第一千歳航空基地

一 二 航 空 艦 隊

東 通・聯合艦隊口・大湊警

機密第一五二六五五番電

機密第一五二六五五番電

第十二航空艦隊參謀長

海軍省副官 軍令部副官 人事局長

二十日大湊警備府ニ赴任セラルル豫定 第十二航空艦隊司令部ハ當

分ノ間千歳航空基地ニ豫置左記幕僚ヲシテ同司令部ニ勤務セシメラ

ルル豫定ナリ

松本(三六六) 三浦(二〇六四) 橋本(二一七一) 増田(二二二二七)

通八一〇一 海軍

海軍



二  
一  
一  
六  
五

受信二〇二〇〇  
譯了二一四五  
電〇七三〇四  
補人◎

◎ 第一千歳航空基地

◎ 一 二 航空 艦 隊

◎ 東 通 ・ 聯合艦隊口 ・ 大湊警

機密第一五一六五五番電

機密第一五一六五五番電

發 第十二航空艦隊參謀長

通報 海軍省副官 軍令部副官 人事局長

二十日大湊警備府ニ赴任セララル豫定  
第十二航空艦隊司令部ハ當  
分ノ間千歳航空基地ニ殘置左記幕僚ヲシテ同司令部ニ勤務セシメラ  
ルル豫定ナリ

松本(三六六) 三浦(二〇六四) 橋本(二一七一) 増田(二二二七)

通八一〇一 壽 A(B) 大湊

海 軍

第十部



# 至急 報告

二一七

受領	開始	二〇	四四	五二	五二	〇〇〇	八八八	三〇〇	六〇〇	八一三	官房	分司	一合
了	二〇	四四	五二	〇〇〇	八八八	三〇〇	六〇〇	八一三	官房	分司	一合	分司	
長	課長	〇〇〇	八八八	三〇〇	六〇〇	八一三	官房	分司	一合	分司	一合	分司	
〇〇〇	八八八	三〇〇	六〇〇	八一三	官房	分司	一合	分司	一合	分司	一合	分司	
〇〇〇	八八八	三〇〇	六〇〇	八一三	官房	分司	一合	分司	一合	分司	一合	分司	
〇〇〇	八八八	三〇〇	六〇〇	八一三	官房	分司	一合	分司	一合	分司	一合	分司	
〇〇〇	八八八	三〇〇	六〇〇	八一三	官房	分司	一合	分司	一合	分司	一合	分司	
〇〇〇	八八八	三〇〇	六〇〇	八一三	官房	分司	一合	分司	一合	分司	一合	分司	
〇〇〇	八八八	三〇〇	六〇〇	八一三	官房	分司	一合	分司	一合	分司	一合	分司	
〇〇〇	八八八	三〇〇	六〇〇	八一三	官房	分司	一合	分司	一合	分司	一合	分司	
〇〇〇	八八八	三〇〇	六〇〇	八一三	官房	分司	一合	分司	一合	分司	一合	分司	

● 第十一、第十二、第十三各隊  
 ● 大隊第一期・大連隊・軍用・航空隊・航空隊  
 ● 航空隊第一・二・三・四・五各隊

電話第一六一二二三〇 番電三分ノ二三三

第十一、十二、十三聯空司令部へ二月十八日以降左ニ依リ主トシ

テ特設訓練ヲ實施スヘシ本隊成期ヲ四月末トス

一、訓練參加者限水中訓練 索電 雷電ヲ除キ全般特別作業

二、主要訓練項目

(4) 訓練要綱

海八九八六・九〇四一・九〇五七 ロ一Aヲ十八(B)所通

海軍

第十課

(四) 附添飛行

(五) 航空訓練

(六) 夜間飛行

(七) 特別攻撃隊編成辦法

(八) 廢止

三 一ヶ月一人當り飛行時數標準 小隊總約二〇時間 大 Squadron 總約三〇時間  
特別攻撃隊隊員設備標準

(1) 各隊隊官隊員總數  $5\frac{1}{2}$  乃至  $1\frac{1}{3}$

(2) 設備標準 (編成) 各隊最上級ノモノ

各隊團長各隊ハ特別攻撃隊訓練ノ外一部搭乗員固有戰團機ノ訓練  
ヲ行フモノトス

各戰團特別攻撃隊及戰團機團長員數標準 (括弧内ハ戰團機團長員數)  
航空隊機數六〇、五〇、谷田團機數六〇、五〇)

百景航空隊一六〇	名古屋航空隊七〇
廣瀬航空隊一四〇	松島航空隊一〇〇
廣島航空隊六〇	北浦航空隊五〇
第二河津航空隊六〇	大津航空隊三〇
廣少浦航空隊〇	神町航空隊一五〇
第三岡崎航空隊一二〇	第二郡山航空隊一二〇
大崎航空隊一六〇	東京分遣隊四〇
第十一聯合航空隊合計一四五九	
大村航空隊六〇、一五〇、一	元山航空隊六〇、一六〇、一五〇
宇佐航空隊一一〇	熊谷航空隊四〇
鹿間航空隊五〇	福山分遣隊五〇
天草分遣隊三〇	博多航空隊八〇
出水航空隊一四〇	關分航空隊一〇〇

第十信課

海

軍

青島分遣隊金山航空隊九〇

美濃航空隊一四〇

西條分遣隊一一〇

藤原分遣隊六〇

釜山分遣隊一〇〇

第十二聯合航空隊合計一四三〇

大井航空隊九〇

鈴鹿航空隊九〇

德山航空隊九〇

高知航空隊九〇

青島航空隊九〇

第十三聯合航空隊四一五〇

練習聯合航空隊三三六〇

大井航空隊訓練外ノ學生練習生教育ノ規定ハ左ノ外學生練習生

ノ教育ヲ中止シ四月十二期飛行學生ハ五月末迄二月末迄上

(四) 四十三期飛行學生ハ現行教育續行ス

(五) 練習學生練習生ハ備置シ各隊最上級ノモノ全部練習員特別政

策隊員以下合同訓練ス



二一七 受信一七三〇五 譯始一七三〇五 譯了二八一〇 電〇八〇五〇 航作機〇

局長	一等長	二等長	三等長	四等長	五等長	六等長	七等長	八等長	九等長	十等長

大海軍一師。五三各航空艦隊

機密第一七一五二三番電

發 G 參謀長

影雲ニ依ル「マリアナ」「ブラウン」方面偵察ノ結果當面ノ敵情ト併  
 々敵ノ企圖ハ概ネ判斷シ得タルヲ以テ當分影雲ハ極力濫存伏勢ニ努  
 敵機動部隊「ウルシー」歸投時ノ偵察ニ備ヘラレ度  
 追テ右時機銀河約二四機 楓島ニ進出スルコトアルニ付伏勢ニ關シ準備  
 シ置カレ度。

通九二二五 出二A-B-G-F







擊敵攻略部隊又ハ機動部隊ニ對シ反覆攻撃ヲ敢行ス

三、航空作戰第七基地航空部隊ハ敵機動部隊ノ本土方面機動空襲ニ對シテハ主トシテ戰闘機ニ依リ敵艦ヲ以テ對處シツツ硫黃島方面作戰兵力ヲ極力北方ニ伏勢シ好機小數機（主トシテ陸攻又ハ濫攻一乃至二機及

彗星特攻隊一乃至二機）ヲ以テ敵攻略部隊（上陸支援特設空母ヲ第一目標トス）ニ對シ黎明薄暮又ハ夜間ノ機動奇襲ヲ繼續スルト共ニ戰闘機一乃至二機ヲ終始硫黃島ニ潛入伏勢セシメ同方面ノ哨戒並ニ敵艦船ニ對スル奇襲攻撃ヲ實施

ハ輸送作戰  
橫須賀鎮守府部隊所定ニ依リ輸送ヲ實施スル外左ニ依ル輸送ヲ實施  
（一）七SSノ輸送潜水艦二隻ニ彈藥其ノ他ヲ搭載ノ上橫須賀及吳ニ各一隻ヲ待機セシメ機ヲ得次第輸送ヲ實施

（二）第一挺進航空部隊ノ輸送機常續二機ヲ準備好機ニ投ジ緊急物件ヲ輸送

（三）硫黃島守備部隊ハ七SS及一UFB司令部トノ間ニ潜水艦及輸送機

ノ到達時刻揚搭（着陸）地點（飛行場）及要領等ニ關シ豫メ密接ナ  
ル連絡ヲ保持

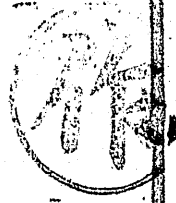
五、其ノ他

(一) 硫黃島及小笠原島守備部隊ハ一般戰況（特ニ航空及地上作戰並ニ敵艦船ノ動靜）並ニ氣象狀況ノ速報ニ努ム

(二) 八丈島 父島 硫黃島飛行場ハ極力常時使用可能ナル如ク整備スル  
ト共ニ其ノ狀況ヲ速報

(三) 硫黃島及小笠原各守備部隊ハ敵上陸用舟艇ヲ攻撃スル場合ノ外極力  
彈藥ノ節用ニ努

（電信課註 本文中三（三）ハ機密第一八一五五七番電）



二一八

作戰緊急

受信二二二八  
譯了二三五〇

電〇八八三四

航作  
本概〇



機密第一八一九五一番電

横領・硫黄島航空基地・聯合艦隊口・第三航空艦隊

一UFB電令作第十五號

好機ニ乗シ硫黄島緊急輸送ヲ決行スルニ付第一及第二空挺隊指揮官  
ハ各一式陸攻二機（搭乗員五組）ヲ厚木基地ニ待機セシムベシ。

通一〇〇五七 呂一A（五一〇〇KC）横通



局長	第一	九	九
第一	九	九	九
A	九	九	九
B	九	九	九
C	九	九	九
D	九	九	九
E	九	九	九
F	九	九	九
G	九	九	九
H	九	九	九
I	九	九	九
J	九	九	九
K	九	九	九
L	九	九	九
M	九	九	九
N	九	九	九
O	九	九	九
P	九	九	九

第六艦隊  
 大本營海軍部

無線艦所用共通符號

電〇九一四〇  
 作部概〇

發 G F 參謀長

機密第一九一二三七番電 二分ノ六二

聯合艦隊電令作第五二三號關聯

潜水艦作戰ハ左ノ點考慮ノ上指導アリ度

一準備出來次第逐次出擊硫黃島周邊ニ於テ長期ニ亘リ執拗ニ攻撃ヲ續行ス

二回天搭載、潜水艦ハ回天攻撃後モ自艦魚雷ニ依ル奇襲ヲ以テ攻撃ヲ強化ス

通一〇三九一 一〇四〇一 呂四 A ( B ) G F P

田 ( )

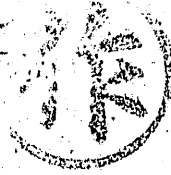
三敵機動部隊ノP.U.歸投在泊時ニ航空特攻ニ依ル挺身攻撃（第二次丹  
作戦）ヲ企圖シアリ此ノ場合無線誘導艦トシテ潜水艦一隻沖ノ島島  
附近ニ行動セシムルコトアリ實施時機ハ概ネ三日前途ニ通報ス。

(一)

二二一 受信一〇一四 譯了二一四七 電〇九九六二  
開始一一二二

作區  
護

親展



第三一戰隊・高 警

大海參一部・第二艦隊中・一一水雷戰隊

機密第二一〇九〇三番電

聯合艦隊電令作第五二八號

一、第三一戰隊ヲ聯合艦隊附屬部隊ニ復歸ス

二、第三一戰隊ハ當分ノ間内海西部ニ在リテ訓練整備ニ從事スベシ。

通一一三六七 呂一A) B) C) D) 餘

二二二  
受信一八三〇

譯了一九〇〇 電一〇一九七

練航作

空本概 ○

● 元 山 空

● 航空本部總務部

● 練習聯合空線▽・一一空廠・二二空廠・五二空廠

● 總務部二二二一〇一番電

● 管陸時政隊用零戰二一型八機零練戰四〇機九六式艦戰一四機二式零  
● 練戰四機、二五番爆裝工事訓令方至急御取計ヲ得度。

通一一五六四 口一A々四(五二〇〇K) 佐通





二二二

受信一九二五  
開始二〇〇五

譯了二〇四五 電一〇一九六 作概〇

二 遺 支 艦 隊 P

◎ 大海參一部・支那方面艦隊

◎ 廈門方面特別根據地隊 P

密電二一一一四八番電

護 宛參謀長

波集國極兵團ノ廈門對岸進出ハ長汀方面攻略ノ關係ト四月ト旬トナル懼レアリ之ガ爲別ニ一箇聯隊ヲ廈門地區ニ增強スル議アル由ナルトコロ同方面ノ重要性ニ鑑ミ至急之ガ實現方取計ハル度追テ同方面現陸ニ兵力左ノ如シ廈門島海軍約六〇〇金門島陸軍約二〇〇〇

通一一六二四 口二A々四(七四六五KG)ト陸

通一二三六七  
一三六七  
一A一B一果

● 第一二聯空

局長							
一課長							
A							
B							

電一〇七六六  
電一〇七六六  
人事・航空  
一本

● 人事局・練習聯合航空總隊

暗號軍機

機密第一二二一五〇二番電二分ノ一二

練習聯合航空總隊機密第一二二一一二番電開聯

元山空特攻ヨリ左ヲ除ク

少尉 篠原隆一ヨト二二二三六

同 善積 武三ヨト二二五八四

同 野田 克人ヨト二一九七六

海軍

第十部

同 吉田 昌泰 (ヨヒニ二一六)  
 同 氣熊 重信 (ヨヒニ一七二)  
 同 星川 悦郎 (ヨヒニ一五〇)  
 同 黒川 勝次郎 (ヨヒニ一四二)  
 同 高山 照美 (ヨヒニ一一一) 及谷田部 航空隊ヨリノ添加者ニ  
 名。

第七信

海

軍

2

二二五

受信開始  
一〇三三五  
一七六一〇五五

電電  
一一二〇二七  
二〇二七

作  
概〇

至急親展

第三特別根據地隊

軍務局  
一〇通信隊

機密第二三一五一五番電 二分ノ一二

宛 第十方面艦隊司令長官

森方面軍ニ於テハ三月一日ヲ以テ當隊ヲ策集團軍ヘ「モールメン」  
派遣隊ヲ嚴部隊ヘ夫夫ノ指揮下ニ入ルコトニ案書中又義部隊ハ第十  
七警備隊ヲ指揮下ニ入ルル豫定ナルガ如シ 本件ニ關スル意見ハ直接開陳  
致度ヲ取敢マ指揮轉移ノ時機ヲ暫ク延期スル様南方總軍ニ申入方然ル  
ベクト認ム尙當隊トシテハ指揮轉移ノ艦隊命令受領迄ハ陸軍各部隊  
ニ於ケル命令ヲ拒否シ得ルモノト考ヘアリ

通「三六五四」一三六二二、 呂二Aケ口(六二〇八KC)一〇通



二二四 受信 一六四九 譯了 一八三〇

電電一一五四三  
一一五四三  
航作 概本〇

緊急

第九〇三空

九〇三空總派遣隊

海上護衛總口・第三航空艦隊口・横須賀防備戰隊  
第三海上護衛隊口・横領・大警・父島根

機密第二四一〇二〇番電 三分ノ六三三

電令作第二二五號

刻下ノ戦局ニ鑑ミ當對潛航空部隊モ敵攻暗部隊ノ進攻如何ニ依リテ  
ハ所在基地航空部隊ト共ニ決戦ニ参加セシメラルル方針ニ付各隊ハ  
現主任務ヲ履行シ對潛水艦作戰ニ從事シツツ左ニ依リ新事態ニ對處スベ  
キ準備ヲ整ヘ概シ二月末頃迄ニハ一應ノ体制ヲ完整シ爾後極力術力

(1)

通一三三〇四 呂一A( ) B( ) 横通  
一三三一八

ノ向上ニ努ムベシ

一、敵攻略部隊ニ對スル左ノ作戰

(イ) 搜索 偵察 觸接

但シ陸攻艦攻及零偵B組以上トシ電探機ノ利用ヲ重視ス晝間攻撃

特ニ艦攻陸攻A組ノ薄暮黎明又ハ夜間雷鑿爆撃トシ

上陸船團ニ對シテハ零偵零觀B組以上ヲ加フルモノトス

電探機ノ利用ヲ重視ス

三、作戰要領

(イ) 敵攻略部隊來攻時所在兵力ハ適宜分散避退シ被害局限ニ努メ爾後

對潛作戰ヲ續行スルト共ニ前項作戰ヲ實施ス

(ロ) 最悪ノ場合ハ各局地ニ於テ特別攻撃ヲ決行ス

三、各隊ノ第一項作戰任務別ニ飛行機隊ヲ編成スルト共ニ特別攻撃隊ヲ

編成シ夫々二月末迄ニ報告スベシ

人



二 二五

受信一八〇〇七

譯了一八四〇

電一五四六

作 概

親展	長	課	A	L	K	I	赤坂	支艦隊F
	一	東	東	京	通	信	支艦隊F	
							支艦隊F	
							支艦隊F	
							支艦隊F	

支那方面艦隊F 第三南遣艦隊F

機密第二四一一五五番電 二分ノ六二

發 參謀長

宛 大海參一部長 軍務局長

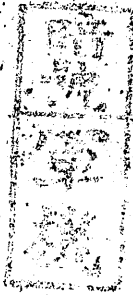
受報者 參謀長

三六各根據地隊艦艇ハ敵機爆撃等ノ爲緊急部隊多數ヲ? 殘? 高角砲モ  
 永年使用ノ結果老朽シ殊ニ長期ニ亘ル季節風ノ時期ニハ沿岸航行可能  
 ナル船艇兩根共ニ一隻トナリテ邀撃作戰上ハ勿論警備上寒心ニ堪ヘザ  
 ルモノアリ

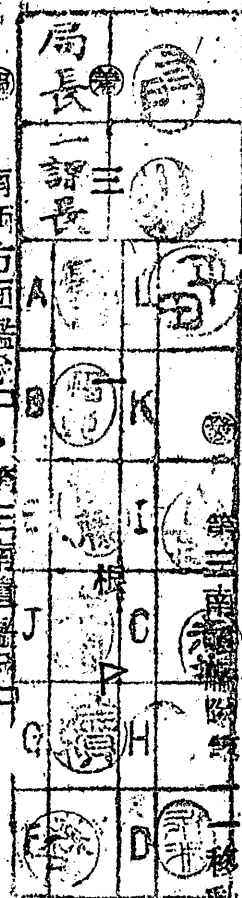
通二三三三〇 一三八七五 呂一Aラ十八(一三七一七五K) 高放

今般第三南遣艦隊驅潛艇ヲ松丸一一・二四號香港ニテ修理中ノ所下松丸ハ四個月間修理三月上旬漸ク完成ノ豫定 驅潛特務艇ハ船體及機關ノ損耗甚シク一號ハ今後約二ヶ月二四號ハ今後一ヶ月ヲ要スル豫定ナルトコロ第三南遣艦隊方面ニテ特ニ使用ノ豫定ナケレバ三隻共是非當隊ニ配屬方配慮ヲ得度。





二二六五 受信〇二〇〇五 譯了〇一三〇 一三〇四九 作 概〇



南西方面艦隊司令部。第三南道艦隊司令部。

無線第一四一六二五番電 三分ノ三

部隊長ノ堅確ナル決意ト鼓舞指揮ニ依ルモノニシテマニラ駐屯軍全  
 體ノ作戰ニ寄與シシ所極メテ大ナリ依テ茲ニ感狀ヲ附與ス  
 昭和二十年二月二十四日 振武集團長横山靜雄。  
 一電信課註 本電三分ノ二未着

通一四〇二八 呂一Aラ十八一四二七〇K)五分遺 セン波(木下)



二二五 受信 〇〇九〇三〇五 費了 一一一〇五 電 一一二七九五 官房・軍務  
 人事

海軍省 事務第二四一七〇二番電 二分ノ一、二



第二南道監獄參謀長

軍務局長・人事局長

司令長官選任ノ結果ニ依リ左ノ件至急發令方取計ハレ度（公文書ニ

依ルモ其ノ到着ヲ待タズ發令アリ度）

一 第八警備隊司令ヲ兼セレベス 民政部州知事 同 副團長 高崎（丁廿二三

二〇）ヲ兼セレベス 民政部都員トシ 列メナド州知事ハ之ヲ充ス

三 大サキ（三四六八）ヲセレベス 民政部政務部長トシ 兼 補充ヲ要ス

ハ決定大體 城外轉出ヲ可トス 大崎ノ後任ハ成ルベク速ニ補充ヲ要ス

一三五五〇・一三六〇五 日一廿四（六一二三五）二二一編

軍

第十信課

第1課長	第2課長	第3課長	第4課長	第5課長	第6課長	第7課長	第8課長	第9課長	第10課長
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

第十信課

二二六

受信一九〇〇

二二〇一〇

二二四一五三

特作

至急

東通

二二

四通

十通。十一根下

機密

機密第二四二二五六番電 三分ノ一、二、三

發 第四南遣艦隊參謀長

宛 大海參一部長

通 聯合艦隊 第十方面艦隊各參謀長 威風參謀長

四 五 機密第二四一七一 一番電關聯

南方海軍ノ統一ニ就テハ何人モ與存ナカルベキ所之ヲ實施ニ當リ

一部兵力移駐後ノ整理又ハ將旗撤去ノ士氣ニ及テ大影響等考慮セ

通一四一三九、一四一四〇、一四六〇四、四三二A、五九〇五C、四三海軍

ラブルモトト想像サレルモ前者ニ對シテハ當管區ヲ擴當スル根據地  
 隊司令部ニ在來ノ關係幕僚ヲ殘留セシムルコトニ依リ解決スベシ  
 後者ニ對シテハ陸隊任務ノ變更及當管區防備體制ノ概成等ヨリ且今  
 後ノ施策ニ依リ最早其ノ杞憂ナキモノト認メアリ殊ニ第十方面陸隊  
 長官ハ自信モアリ之ガ責任ニモ當ルベク毫モ懸念ノ要ナキモノヲ右  
 ハ如キコトニ拘リ大局的緊要實施ニ躊躇セラルルヲ不本意トセラレ  
 アリ

敵來寇切迫ノ兆ナキ今日ヲ以テ最モ其ノ時機ヲ得タルモノト認ム  
 又臺北陸軍部隊ノ新配備ニ於テモ蘇南遣艦隊存續如何ト後繼指揮  
 官ノ都合トガ勢及艦ノ司令部所在地位ニ一セラム一地區兵力配備決  
 定ノ要素ト致度輝ノ意向ニ對シテ其ノ決定ヲ穩首シアリ  
 至急中央方針明示ノコトニ取計ヲ得度  
 一東通註 G P P ツラ濟一

第十課

海軍 (2)